１　研究基調

Ⅰ　研究主題

研究主題　教科の視点を明確にした各教科等を合わせた指導における指導のあり方 ～マトリックスを活用した授業実践を通して～

Ⅱ　研究主題設定の理由

１．本研究１、２年目の取組について

新学習指導要領の主旨を踏まえ、一昨年度より「教科の視点を明らかにした各教科等を合わせた指導のあり方」をテーマに研究を推進している。

１年目は、特別支援学校校長会主催の「専門性向上研修」と連携し、鹿児島大学より肥後祥治教授をお迎えし、指導講話と本主題に関わる公開授業研究を合わせた研修を２回計画・実施した。その中で、新学習指導要領を踏まえた合わせた指導のあり方等についての理論と授業の実際等について整理することができた。

２年目は、新型コロナウイルス感染症予防のため、授業の行い方を工夫しながら学習評価に視点を当て、校内で取り組める授業実践を行った。具体的には、できなかったことに対して単元目標や主眼に照らして記述で評価するといった、評価の観点を明確にした授業実践を小・中・高で１回ずつ行った。そして、評価方法の検証を行い、PDCA サイクル（目標設定―実践―評価―指導・支援方法、目標等の見直し）の構築を図った。また１０月に、山口大学の松田信夫教授より、マトリックスの授業実践における効果的な活用の仕方についてのご指導を頂いた。講話のアンケートにおいても、マトリックスの活用や必要性に意欲的な意見が多く出された。

これらを受け、本主題を設定した。

２．研究主題について

（１）教科の視点を明確にする意義

新学習指導要領では、各教科等を合わせた指導について次のように書かれている。「（前略）各教科等を合わせて指導を行う際には、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、（中略）、効果的に実施していくことができるように（中略）各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画を立てることが重要となる。」

（特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部））

各教科等を合わせた指導では、児童生徒が、生活に密着した実際的体験的な学習を行うことができる。夢中になって取り組める指導の形態の中で、目指す資質・能力を育成していくことができるという点から、本校の教育活動としても大変有効であると考えた。そこで、以下の４つに取り組み、これまで以上に育成を目指す資質・能力を具体的に育むことが可能になると考えた。

① 各教科等を合わせた指導の中にある各教科の指導目標や指導内容、学習評価の整理を行う
② 各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にする
③ 年間指導計画の内容を見直し、今ある計画をさらに充実させる
④ 小学部から高等部まで一貫性、系統性のある教育課程を編成する。

（２）マトリックスを活用した授業実践

新学習指導要領に示されているように、各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画を立てることが重要である。マトリックスは、単元ごとに含まれる各教科等の視点・内容項目を図式化したものであり、育成を目指す資質・能力に照らして、単元を構成していくもととなるものである。マトリックスは、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習、各教科等合わせた指導すべての年間の単元を記述し、教科の視点を網羅するように作成していく。そして、作成したマトリックスをもとに、単元の目標を設定し、単元構成、指導計画を立て、本時のねらいや活動を設定する。声かけやワークシート等、具体的な支援も考え、授業実践に活かす。その後、育成を目指す資質・能力と照らして評価をし、マトリックスや授業を見直していく。そのようにマトリックスを活用することで、①育成を目指す資質・能力（目標）を明確化、②教科の視点を明確化、③学びの履歴の見える化、④教育課程の系統性の明確化を目指した。

３．研究方法について

専門性向上研修として、山口大学松田信夫教授から、教科の視点を明らかにした各教科等を合わせた指導の在り方（理論編）と（実践編）を通して、本校全職員や他校の職員参加のもと、ご指導を頂いた。その中で、各学部授業者の学習指導案や授業実践、協議会における指導助言を通して研究を進めていった。また、本校前校長である金田孝一先生から、特別支援学校（知的障害）における教育のややこしいところについて、本校全職員へのご指導を頂くとともに、主題研究係へマトリックス作成・活用におけるご指導、ご助言も頂いた。

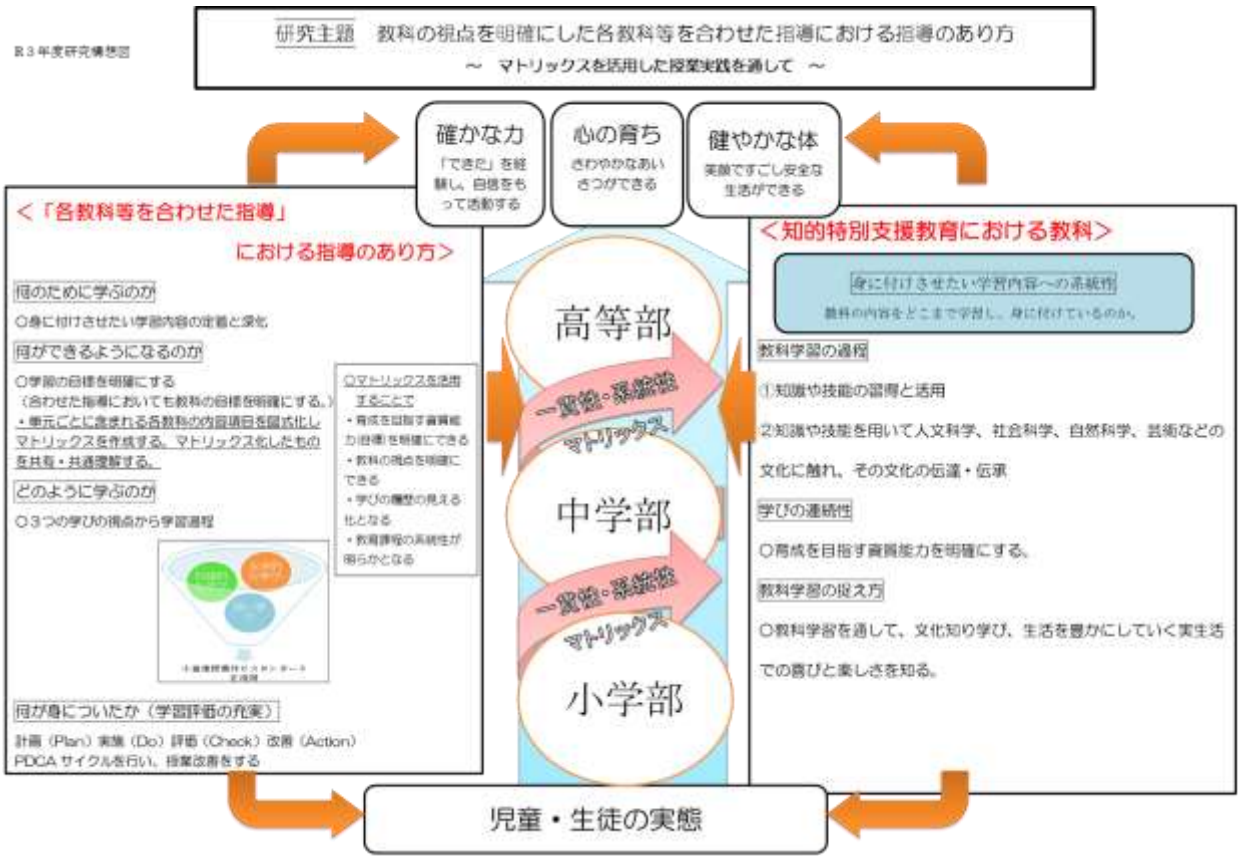
４．研究構想図について

学校教育目標である、①明るい子（「できた」を経験し、自信をもって活動する）「確かな力」、②思いやりのある子（さわやかなあいさつができる）「心の育ち」、③たくましい子（笑顔で過ごし、健康で安全な生活ができる）「健やかな体」の実現に向けて、授業実践から、各教科等を合わせた指導のあり方を探り、各教科等を合わせた指導における教科の視点を明らかにすることとした。

授業実践では、「何のために学ぶのか」「何ができるようになるのか」「どのように学ぶのか」「どんな力が身についたか」を計画（Plan）実施（Do）評価（Check）改善（Action）

の PDCA サイクルで、授業改善を行うこととした。

また、マトリックスを作成し、活用した授業実践を通して、指導のあり方を明らかにすることを目的に研究を進めていった。



５．研究計画について

<本年度の年間計画>

１年次	２年次	３年次
○スタンダード活用と検証 ○年間指導計画の整理（表作成） （各教科等の内容の偏りを確認）↓	○スタンダードの充実 ○年間指導計画の改訂 （各教科等の内容の偏りをなくし広がりをもたせる） ↓	○スタンダードの活用 ○マトリックスの作成と活用 ○改訂した年間指導計画に基づく単元指導計画と実践 ↓
○生活単元学習での授業研究	→	→
・各教科等の視点を明確にした授業づくり、授業改善 （各教科等のどんな力を付けたいか）	→	→
・実態把握と評価	→	→

<本年度の年間計画>

５・６月　　研究推進委員会、主題研究係会
　　主題研究に関する職員研修「本年度の主題研究について」
　　全学部学年でマトリックスを作成。作成後、単元が終わるごとに作成したマトリックスの加筆・修正・見直し

７月　　金田孝一先生　　「特別支援学校の教育課程について」研修
　　マトリックス作成・活用における指導・助言（主題研究係）

９月　　山口大学　松田信夫教授　　リモート研修
　　「教科の視点を明らかにした各教科等を合わせた指導の在り方（理論編）」
　　各学部授業者への指導案についての指導

１０月　　各学部の授業研究・協議会

１１月　　山口学芸大学　松田信夫教授　　リモート研修
　　「教科の視点を明らかにした各教科等を合わせた指導の在り方（実践編）」

１２月　　研究のまとめ、次年度への整理
　　・研究推進委員会にて、本年度の成果と課題の整理
　　・次年度に向けての取組の方向性等の整理

１月　　主題研究に関する職員研修
　　「次年度へ向けての取り組みの概要」

３月　　主題研究に関する職員研修
　　「本年度の主題研究のまとめ、成果、課題及び次年度の方向性について」

６．研究の実際について

本研究では、各教科等を合わせた指導の各教科等の視点を明確にした年間指導計画の整理を行い、それに基づく授業づくり、授業改善を行った。

本年度は、本研究の３年次である。昨年度の課題で挙げられた、新学習指導要領に対応した学びの履歴の見える化や系統的な指導の構築のためにマトリックスを作成し、活用すること着目し、研究を進めた。マトリックスの作成では、小・中・高等部全学年で日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習、各教科等を合わせた指導すべての年間の単元を記述し、その中で教科の視点をできるだけ網羅するように作成し、作成の際には、育成を目指す資質・能力に照らして、教科の視点を明らかにした。特別支援学校学習指導要領解説各教科等編を参考に各学年で、どの教科の視点・内容項目がよりねらいに迫れるか、指導の効果が期待できるか等を考え、印をつけた。単元が終わるごとに随時加筆・修正、見直しを行った。授業実践では、マトリックスの教科の視点から、育成を目指す資質・能力を考え、単元の目標、指導計画、本時のねらいを作成し、それぞれに各教科の視点・内容項目を踏まえ、実践した。学習指導案の工夫として、単元の意義・価値の冒頭に、本単元がどの各教科等で構成されるのかを明記したり、指導計画に含まれる教科を明記したりし、合わせた教科の見える化を行った。

研究のまとめ

新学習指導要領の主旨を踏まえ３年次研究の３年次として「教科の視点を明確にした各教科等を合わせた指導における指導のあり方」をテーマに、マトリックスを作成し、活用しながら研究を推進した。山口大学松田教授からの指導助言、講話を含めた専門性向上研修と連携して研究を進めていき、各学部での合わせた指導の授業実践・協議会を行うことができた。新型コロナウイルス感染予防のため、授業見学は行えなかったものの、学部ごとに授業実践の様子をビデオで視聴し、主たる活動の中で、児童生徒が教科の視点を達成できていたか、改善すべきところはなかったかをテーマに協議会を行った。多くの意見や感想、助言を頂き、実りのある協議会となった。

研究推進にあたっては、以下の流れで進めた。

① 本年度の研究についての共通理解を図るための校内研修実施

② 全学年で日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習、合わせた指導すべての年間の単元を記述し、教科の視点をできるだけ網羅するように作成
単元が終わるごとに作成したマトリックスを加筆・修正・見直し

③ ７月に金田孝一先生より、特別支援学校の教育課程についての講話
主題研究係を中心にマトリックス作成・活用における指導・助言

④ ９月に山口大学の松田教授より、教科の視点を明らかにした各教科等を合わせた指導の在り方（理論編）についての研修

⑤ 各学部授業者の学習指導案完成後、松田教授より、授業者へ指導・助言

⑥ １０月に各学部授業者によるマトリックスを活用した授業研究を行い、各学部ごとに協議会で話し合い
主題研究推進委員を中心に、協議会のまとめとアンケートの取りまとめ

⑦ １１月に山口学芸大学の松田教授より、教科の視点を明らかにした各教科等を合わせた指導の在り方（実践編）についての研修

（１）本研究の成果

本研究を通して、成果と考えられるものを次の２つにまとめた。

◎成果１　単元ごとに含まれる各教科等の視点・内容項目を図式化したマトリックスを作成したことで、教科の視点が明確となり、学びの履歴の見える化となった。

マトリックス表を作成したことで、合わせた指導の各単元の中で、生活、国語、算数(数学)、社会、理科、音楽、図画工作(美術)、体育、道徳、特別活動、自立活動、全ての教科の、どの視点・内容項目を取り扱っているのかを一目で見て分かることができた。その結果、教科に偏りや取りこぼしがあること、合わせることができず、教科として指導していること等に気付くことができた。これはマトリックス表を作成していなければ気付けなかったことである。また、学びの履歴の見える化にもつながり、合わせた指導の中で実践してきた教科の活動を、年間を通していつでも確認でき、これまでの授業実践やこれまでに身に付けてきた教科の力を知ることで、次の単元計画に生かすこと

ができる。

◎成果２　教科をより意識するようになり、教員一人一人の指導力向上につながった。

マトリックス表を作成・活用していく際に、単元から育成を目指す資質・能力（つけたい力）を考え、子どもの目指す姿に照らして、教科の視点を明らかにしていった。その過程において、小学部・中学部・高等部全学年で取り組んだことで、多くの職員が学習指導要領を読み込み、考えて、教員同士で活発な意見交換もしていく中で、マトリックス表を完成させていった。また作成だけにとどまらず、授業実践後（単元が終わるごとに)、この教科の視点は実態に合っていたのか、目標が高すぎていないかなど、随時学年で話し合い、加筆・修正して見直していった。その結果、教科を意識する機会をもつことができ、そこから熟考し、教員同士で考えを共有していくことで、教員一人一人の指導力向上につながっていったと考える。

（２）本研究の課題

本研究を通して、課題と考えられるものを次の２つにまとめた。

▲課題１　マトリックスの見直しについて

今年度マトリックス表を作成したが、教科の視点・内容項目が段階別に分かれておらず、段階ごと詳細に履修できているのか見ていくことは難しかった。また、作成し、授業実践していく中で、明確な目標を持ってつけられた目標レベルでの黒丸と、内容を取り扱った活動レベルでの黒丸の両方が混在していることが分かった。すべてが目標レベルで扱っているわけではないため、目標達成を目指し、指導しているもの、つまり主たる目標には●に、目標達成のための手段として内容を扱っている活動レベルには○にするように精査をしていく必要がある。また、○の活動レベルであっても、その活動を授業の中で評価しているので、○でも履修したこととなることを共通理解して整理し、マトリックスを再度見直していく必要がある。

▲課題２　教育課程の改善に向けて

合わせた指導について実践していく中で、教科の視点に偏り等があることが分かった。教科別の指導をしていない教科に関しては、小学部では６年間、中学部・高等部では３年間で教科の視点・内容項目が全て履修できるように学年間で系統的に見直していかなければならない。また、合わせた指導ありきで単元を構成することで、教科の寄せ集めの授業となる場合があり、教科の視点や育成を目指す資質・能力が曖昧となるケースが見られたことから、教科の視点で合わせることが難しい場合は、無理に合わせようとせず、単独の教科の単元として指導する等の教育課程の改善を目指す必要があることが分かった。

（３）今後の展望

来年度に向けて、教科別の指導をしていない、合わせた指導の中でしか扱うことができない教科に関して、小学部では６年間、中学部・高等部では３年間で教科の視点・内容項目が全て履修できるようにしていく。そのために、学習指導要領解説に挙げられている段階ごとに取り扱う教科の内容を分かりやすく表にまとめたものを準備する。

中学部・高等部では、課題１で挙げた主たる目標の●と、活動レベルの○を履修したものとして、上記で説明した各学年ごとに表の取り扱った項目に当てはめていく。そうすることで、履修できていない教科の視点が一目瞭然となる。そこから、履修できていない教科の視点に関して、他の教科と合わせて指導できるのか、合わせることが難しい場合は「教科」として指導していくのか精査する。最終的には、３年間で全て履修できるように、学年ごとに取り扱う内容について色分けをし、振り分けることで、指導していくことができる。また、新２年生は残り２年間で、新３年生は残り１年間で、履修できるように計画を立て、実践していく。

小学部では生活科について、１～６年生まで、主たる目標の●と、活動レベルの○を履修したものとして、各学年ごとに表の取り扱った項目に当てはめていく。小学部の生活科については、目標設定に誤りがないか（例えば、低学年が高学年より難しいことをしていないか、逆に高学年が低学年より簡単なことをしていないかなど）を重点的に見直していく。今後は、低学年では１段階の目標、中学年では２段階の目標、高学年では３段階の目標設定をし、系統性をしっかりと保てるように取り組んでいく。

最終的には年間指導計画を立て、来年度は新たな年間指導計画のもと取り組み、ブラッシュアップしていきたい。